



2009年 松山市の動き

- 2月 市制施行120周年記念式典
- 6月 1994年以来15年ぶり夜間断水
- 11月 スペシャルドラマ「坂の上の雲」放送開始

出来事

- 1月** ●第1回定時総会・例会 (松山全日空ホテル)
●京都会議
- 2月** ●例会「JC i·s·m ～踏み出そうこのまちの明日のために… さあ行こう私たちには情熱がある～」(松山全日空ホテル)
- 3月** ●例会「人のよく言うを以って賢しとなさす。 ～3分間スピーチのすすめ～」(本町会館)
- 4月** ●松山春まつり お城まつり
●わかたけききファンド受給者証授与式
●例会「やる気になれる例会」(松山市総合コミュニティセンター)
- 5月** ●憲法タウンミーティング
●例会「地域が変われば日本が変わる！ 協働運動推進アクションプラン」(本町会館)
●第22回わんぱく相撲まつりやま大会
●第39回四国地区愛媛ブロック会員大会 (八幡浜)
- 6月** ●第58回JCI ASPAC 長野
●愛媛ブロックスポーツ交流大会 (西条)
●例会「堀之内から始まるローカルコミュニティの復活 ～まず私たちが一つになる～」(松山市総合コミュニティセンター)
●四国地区会員大会 (みとよ)
- 7月** ●第1回臨時総会・例会「すべては次世代の子供達のために ～食育のすすめ～」(本町会館)
●サマーコンファレンス (横浜)
- 8月** ●松山JC創立記念パーティ
●第25回わんぱく相撲全国大会
●第2回臨時総会・例会「新入会員入会式・正会員証授与式」(松山市総合コミュニティセンター)
●公開討論会 (衆議院議員選挙演説会)
- 9月** ●例会「2010年まちづくりビジョンを理解しよう！ ～「有為転変」8年後の今！(松山市総合コミュニティセンター)
●第26回まつりやま市民シンポジウム
- 10月** ●第58回日本JC全国会員大会 (沖縄那覇)
●例会「すべては次代を担う青少年のために ～他人ごとではない！ 私たちが割る薬物の必要のないまち～」(松山市総合コミュニティセンター)
- 11月** ●第2回定時総会・例会
「坂の上の雲」から始まるまちづくり、ひとづくり(本町会館)
●第64回JCI世界会議 (チュニジア ハマメット)
- 12月** ●例会「卒業式・懇親会」(松山全日空ホテル)

2009年度(社)松山青年会議所 賀詞交歓会



▲1月 新年の賀詞交歓会で挨拶する小泉理事長



▲1月 メイン会場の国立京都国際会議場 (京都会議)



▲4月 子供たちも忍者や着物、小僧さんの衣装で行列に参加 (お城まつり)



▲4月 3名の高校1年生にわかたけききファンドを授与



▲5月 見合って、見合って！ (わんぱく相撲)



▲8月 第45回総選挙に向け開催されたマニフェスト型公開討論会



▲10月 野外での式典となった全国会員大会



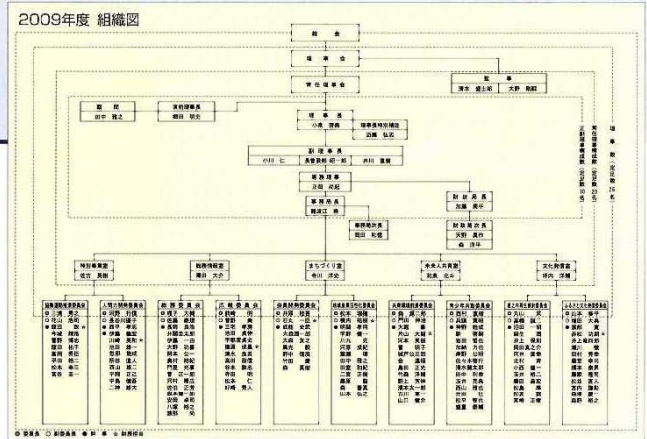
▶9月14日、2009年の総を繋ぎ合わせるマニフェスト型公開討論会 (市民シンポジウム)



▶9月 シンクロナイマーの武田愛保さんと小泉理事長のトークショー (市民シンポジウム)



▲11月 チュニジアで開催された世界会議のジャパンナイト



社団法人松山青年会議所2009年度理事長所信

社団法人松山青年会議所

小泉 啓典

・はじめに

今から57年前の1952年、戦後の混乱期の最中、JCI(国際青年会議所)の理念に賛同し、地域の復興と発展を願う、情熱溢れる青年経済人文化人などが集い松山青年会議所は産声をあげました。戦争を経験した事の無い私たちには、その時の状況や苦勞の全てを理解する事など到底出来る事ではありませんが、余程の情熱や決意が無ければ設立する事など叶わなかった事は想像に難くありません。今、私は設立に携わった全ての先輩に敬意を表すと共にその設立時の熱い思いを継承し、情熱に満ちたベンチャースピリットを今一度呼び起こす使命があると感じています。戦後、我が国は敗戦のショックから立ち直り、見事に復興し著しい成長を遂げ経済大国の仲間入りを果たしました。経済成長の裏では新しい産業が次々生まれ、とりわけ情報網の発達・整備には目を見張る物があります。現代社会においては、個人が携帯電話だけでなくパソコンを所有している事も当たり前になり、1990年代後半からの「IT革命」により情報のブロードバンド化は更に加速し、国内外を問わず通話や情報のやり取りが何処に居ても人と会わずして誰とでも出来るまでになりました。しかしその利便性の裏では人と人が接する機会は減少し、日本古来の文化である「OMOIYARI」精神は希薄になり、利己主義に起因する近代的犯罪が多発しているのが現状です。私たちは日本に生まれ日本で生活する国民の一人として、この「OMOIYARI」精神の宿る文化を、次代へと継承する責任があるのではないのでしょうか。

近年当たり前のように使う「グローバル化」という言葉。現代社会に生きる私たちにとって広い視野にたち世界を見つめ、地球規模で物事を思考するのは自身にとって必要な事であり、またこの地球の未来にとっても必要な事でもあります。しかし「グローバル」は点在する国や地域、即ち「ローカル(地域)」の存在があって、初めてその意味を成す事を忘れてはいないのでしょうか。私は、点在する「ローカル」の健全な発展無くしては正しい「グローバル化」は有り得ないと考えています。今、私たちは「グローバル化」の前に私たちの住む松山という「ローカル」への見識を深め、このまちの明るい明日へと繋がるビジョンを描き、その理想の実現へと行動を始める事で、「ローカル」から始まる正しい「グローバル化」を歩み始めるのです。

地域の健全な発展や明るい未来は、個人が願って叶う事ではありません。夢や希望を抱いた個々が持つアイデンティティが融合する事で創造力は増し、理想を共有できるコミュニティを形成し、創造を具体化する事が理想であり実現へのスタートラインに立つのです。私たちがJCとして地域の活性化や健全な発展に寄与するには、JCメンバーは元より、市民の皆様と共有出来る夢を抱き、共感して頂けるビジョンを描く事が使命だと考えます。それには共通の夢やビジョンをイメージする場所が必要であり、その場所を通して理想郷実現へと思いを一つにしたいと考えています。2009年私は「理想郷松山」の実現に向けて「堀之内」をベンチマーク(基準点)とした周辺市街地再生への提言・活性化へのアクションプランの策定等、「堀之内再生」を通じて、市民との意識の共有を図りたいと考えています。数年前まで

堀之内には市営球場を中心とした各種施設がありました。そこでは、野球だけでなく夏にはミュージックナイターや花火大会等が開催されていました。私たち JC も、夏まつりにはお化け屋敷を出展したり、冬にはライトアップ事業を行ったりと、常に人の集う場所としての機能と役目を果たしてきました。しかし、市営球場を始めとする施設の移転とともに、その機能は失われつつあり再開発への道を模索している最中です。私自身 JAYCEE として、そして市民の一人として堀之内を中心とした周辺市街地の再生・活性化こそが、このまちの未来図を描く上で重要だと考えていますし、市の中心部にあり松山城下に位置する堀之内がコミュニティとしての機能を取り戻す事は、地域を重んじたこのまちの文化の継承にとっても必要な事だと感じています。メンバーの皆様の「堀之内再生」を核とする全ての事業への積極的な参画を深く切望します。

私たちが行っている JC 運動は、決して自己満足で終わってはいけません。一人でも多くの市民の皆様に御理解頂き、施行する全ての事業が「理想郷松山」実現への起点となるよう使命感と覚悟を持って取り組みましょう。

・コミュニティとしてのJC

人は皆「おぎゃあ！」と産声を上げた瞬間に、初めてのコミュニティ「家族」に属します。これが「個」としての人生の始まりであり、同時に「属する」事の始まりでもあります。私たちはその生涯を望むと望まざるとに関わらず何らかに属して過ごす事になります。「個」が繋がり「属する」のがコミュニティであり、形成されたコミュニティの中に私たちは生きている事を理解しなければなりません。私たちは「家族」という最小のコミュニティから「属する」人生を歩み始め、その成長の過程で様々な人々に出会い、縁あって社団法人松山青年会議所というコミュニティに属しました。「家族」に家訓があるように、この青年会議所には理念があります。この理念を理解し、目指す方向性を共有し、一致させる事で青年会議所としてのコミュニティを形成している意味をなし、理念に基づいた方向性が見える活動を繰り返す事で、このまちの発展の為に必要な団体だと認知され、私たち青年会議所のもつ可能性を感じて頂けるのではないのでしょうか。

・What's JC？

皆さんは JC に入会する前に JC に対してどのようなイメージを抱いていましたか？入会した JC はイメージ通りの団体でしたか？多忙な日々の中で参加する JC、何を思い入会したのか、何の為に事業を行っているのか、考える余裕すら無いのかもしれませんが。人は疑問を抱く事でその答えを見つけるための発想や行動を始めます。自らが答えを導き出す事＝成長なのだと私は考えます。What's JC？疑問を持ちましょう。疑問を持つ事、それは JAYCEE としての自己の成長へと踏み出すだけで無く、JC という団体が持つ可能性という扉の前に立つ機会を得る事なのですから。

・手段・手法としての事業

私たち JC が行っている事業は、そのほとんどが「市民意識の変革」という「目的」に繋げる為の「手段」として存在しています。事業の企画立案から施行までの一連の流れは、メンバー個々のスキルアップ

等に役立つ活動であり、それだけで本来の「目的」が達成される訳ではありません。個々が知恵を寄せ合い、様々な「手法」を用いて施行された事業が市民の琴線に触れ、共感して頂く事で意識が覚醒し、「気づき」が産まれます。このまちの未来にとって必要な何かに気づいて頂き、明るい豊かなまちづくりへの参画意識の向上へと導く事。それを達成する事が JC 本来の目的「JC 運動」なのです。私たち自身も市民の一人です。愛するこのまちの次代を担う市民の一人として、そして地域に与する団体としての熱い思いを、事業を通して伝え市民の心を動かし、運動としての目的を達成しましょう。

・協働運動への参画

現在我が国には700有余のLOMと約4万名の JCメンバー、同志が存在します。各地青年会議所から出向したメンバーが社団法人日本青年会議所を形成し、北は北海道から南は沖縄まで、日本国中で効果が得られる共通のツールやアクションプランを作成し発信しています。これを受信し参画して各地青年会議所の運動が連動し、また情報交換をする事でその運動の効果を検証する。これが協働運動だと考えます。私は、積極的にこの運動に参画する事で JC のスケールメリットが生かされ、市民意識変革への効果が得られる物と信じていますし、逆に私たちが地域で行う効果的な運動を、全国に対して発信する機会を得られるメリットもあるのです。この互換性を持つ機会を有効的に活用し、受信するだけではなく私たちが地域で行う運動の素晴らしさも全国のLOM、同志に発信しましょう。

・おわりに

私たち青年は「まだまだ青い」と称されるように、人として成長の過程にあり、まだまだ多くを学ばなければなりません。まして私たちは「市民意識の変革」という、大きな目標を掲げ地域のリーダーと成りうる人材を育てる JCのメンバーです。JCという組織の秘めた無限の可能性を信じて、メンバー一人ひとりが高い志と強い勇気と熱い情熱を持ち、40歳までの限られた時間を共に過ごし、一つでも多くの事を学び実践する事で自己の成長へと繋げ、このまちの更なる発展を願ひその一翼を担ってみませんか。完成された指導者ではなく、情熱を持った志高き「始動者」として……。